

## 夢のあるSFの話★をしたい!

M「今回のテーマは「SF(サイエンス・フィクション)」。これは、超有名なさるおかたによって「すこし・フシギ」と言われることもあります」

T「すこし・フシギ……?あっ、S(すこし)F(フシギ)!!」

F「わたしは、子どものころに見た『使えない消しゴム』っていう不思議な話のショートアニメが、すごく記憶に残ってるんですよ〜」

M「そうそう、週刊ストーリーランドでしょ?不気味なおばあさんが色んなものを売ってくれるんだけど、絶対ハッピーエンドにはならないのよね」

F「奇妙な話ばかり集まってましたね……」

T「SFって聞くと、宇宙に行く!感じの話のイメージがあります」

M「火星に移住する!とかね。なんて、みんな火星に行こうとするんだろうね」

F「一番近いからじゃないですか?……そういえば、Tさんの時代には、もう冥王星って習わないんですよ!」

M「ええ?!」

T「はい。教科書の端っこのほうに(太陽系の惑星に以前は冥王星も含まれていた)ってちっちゃく書いてあるぐらいで……」

M「ええ〜……プルート……!!」

F「セーラー●ーン?!」

M「そう!あれってSFかしら?」

F「ええ……でも、惑星がそれぞれのキャラクターにとって重要でもんね。あ、Tさん知ってる?セー●ームーン」

T「あまり詳しくは……わたしプリ●ュア世代で」

M「プリ●ュアはファンタジー?SF作品って、他になにがあるっけ?」

F「『銀河鉄道の夜』はSFかもしれないですよ」

T「スター●オーズ?ドラ●もん……」

M「うーん。銀河●道999はSFよね。宇宙戦艦ヤ●トとか?」

F「それよりも、今回のこのコーナー、後半に伏字が多くなってませんか?」

T「見てる人たちは、なにがなんだか分からなくなっちゃうかもしれません……!」

M「そこは、みんなの想像力を信じて!!!」

F&T「ええ〜?!」



←QRコードでも  
アクセスできます

Instagram公開中 ここにアクセスしてね★

<https://www.instagram.com/hondarake55>

## ホンダラケ

2023. 8.1

## SF★SF

(サイエンス・フィクション)★(スペシャル・フィーチャー)

つまりは、SF 特集です。

## 『まほろばトリップ 時のむこう、飛鳥』

倉本由布/著 アリス館 2020年刊



F/クラ

中学生の真秀は、突然光に包まれて——飛鳥時代にタイムスリップ!そこには7年前に行方不明になった兄がいて……。はたして、彼女は兄をつれて無事に現代へと帰ることができるのでしょうか。主人公の人を思う心に、応援したくなるストーリーです♪飛鳥時代の歴史にもとづいて書かれたストーリーなので、額田王(飛鳥時代の皇族)たちも登場します。中学生の真秀に、歴史人物がどんなふうに見えるのか、そこも見どころのひとつです。

## ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「祭り」  
浴衣に夜店に花火！今年はどこのお祭りに行くのかな？

## 『白蛇島』 三浦しをん／著 KADOKAWA 2001年刊

この本では主人公の悟史が夏休みに故郷である拝島に帰省します。そこでは13年ぶりの大祭が開催され、にぎわっているところに物の怪が出たという噂が流れます。そこで悟史は幼なじみの光市と噂の真相を探りに行きます。そしてそのあとまさかの展開に…。

面白く引き込まれるので是非読んでみてください。

P.N. k.o (高校2年生)



F/ミウ

## 新着図書 Pick Up

### 『国語の時間 学校の学びを社会で活かせ！[新版]』

松井大助 漆原次郎／著 ペリかん社 2023年刊



366.2/23

学校の勉強はなんのため？ 今勉強していることが、将来なんの役に立つ？ 学習のモチベーションを保つためにこの疑問の解消が切実なかもいるでしょう。この本は、国語の勉強がどんな仕事にいかされるのかを、実際にその仕事に就いている人の話をもとにまとめたものです。作家、は予想がつくでしょうが、まさかこの職業も？という意外なものもありますよ。国語が得意、あるいは好きだけれど、就きたい仕事が決まっていない人にも参考になるでしょう。



## 「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

### 『夏のルール』 ショーン・タン／著 岸本佐知子／訳 河出書房新社 2014年刊

独創的な絵と表現が特徴のショーン・タンの絵本。YAコーナーにも絵本はあるのですが、その中でもこの本はちょっとサイズが大きすぎて棚からいつもはみ出し気味…。でもせっかく夏がテーマの絵本ですから、皆さんにも見ていただきたい！子どもの頃の夏休みは毎日楽しいこといっぱい！だけどね、夏を楽しむための子どもだけが知っている、ナイショのルールがあるみたい。不思議な不思議な世界へようこそ。想像力がいろんな解釈を与えてくれる絵本です。



726.6/14

## 難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

### 『時が新しくなったころ』 ロバート・F・ヤング／著 東京創元社 2014年刊

化石といえば、恐竜とかアンモナイトでしょう。人間が化石ってどういうこと？(比喩ではありません)その調査のため、カーペンターは約七千万年の時を超えて恐竜時代の地球に降り立ちます。そこで出会ったのが、誘拐されて来たという火星の王女と王子……。幻影フィールドなどハイテク満載の乗り物で誘拐犯と追いかけて。そして、彼らを一度撒いてからのキャンプ(焼きマシュマロにココア!)。化石は誰のもの？という謎に、カーペンターが長年抱く片想いにまつわるロマンスも。要素詰め詰め物語。ラストは見事に伏線を回収して大団円。これぞエンタメ！な作品です。



933/ヤン